

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公

公表: 令和3年3月31日

事業所名

縁

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動、食事、体調不良時においてもそれぞれのスペースが確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		特性や状況に合わせて配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		玄関先の移動や移乗において連携をとり利用者の安全に、配慮している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		PDCAサイクルを有効に活用。毎月、目標を設定して行動評価改善を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の声を真摯に受け止めて課題を共有。可能なことから改善に取り組んでいる。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在ではできていないので今後検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月1回会議を開催。非常勤職員も含め内部研修や研修報告会を行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			長期休暇前には課題や目標を明確にして職員間で検討や共有、振り返りを行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		適応行動の状況を把握するためにアセスメントシートを作成、使用していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		非常勤職員も含め意見交換を行い、プログラムを立案している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			利用者の利用日や得意なことなどを更に考慮して工夫していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日は時間配分や活動内容に配慮している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			発達の段階をみて必要な活動を更に取り入れる。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日のミーティングで必要な情報を共有。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼の際に報告を受けて記録、共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			記録したことを振り返り更なる課題改善に繋げていきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		難しいケースは計画相談担当者に相談している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		ガイドラインに沿った事業所の運営方針を作成・共有して支援を行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理責任者または、管理者が参画し連携をとっている。	

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公

公表: 令和3年3月31日

事業所名  縁

	内容	○	○	説明	結果	
関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			今後はより綿密に情報を共有していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				今後、医療的ケアが必要になった場合は主治医と情報共有を図る。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		計画相談担当者や保護者を通して様子を共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			積極的に進路先への情報提供を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		埼玉県発達障害支援専門研修に、全ての職員が参加できるようにしたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍における感染予防、拡大防止の取り組みとして自粛していたが、緩和されたら児童館だけでなくボランティアを入れ活動することを検討している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			新型コロナウイルス感染症が緩和されたら社会福祉協議会からのボランティアの受け入れを積極的に行いたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に申し送りを行い、連絡帳にも記載して家庭や学校、事業所での様子共有を行っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			必要に応じて行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に重要事項説明書に基づき行い、利用開始後も必要に応じて説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		状況や緊急度に合わせて電話や面談を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍における取り組みとして計画検討中。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情受付担当、解決責任者をきめている。苦情発生時には改善と防止に迅速に対応できるように努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回便りを発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付きロッカーに保管している。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		伝え方、方法について受け止めやすい配慮をして伝えている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域住民が気軽に参加できる行事を検討中。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時の対応マニュアルを周知、見直しを行っている。	
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		様々な災害を想定して、月1回の訓練を行っている。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公

公表: 令和3年3月31日

事業所名 縁

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			今後も定期的に職員間で周知していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			必要な時の状況について職員会議にて決定し、かつ保護者からの提案と了解を得た上で行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			保護者からの申告があったら対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		積極的に作成・検討会議をとりおこない再発の防止に努めている。	